



「お取りしきりの喜びに誘う人は幸せだ」

2024年6月30日

にほんせいこうかい はちのへせい きょうかい
日本聖公会八戸聖ルカ教会

かんりぼくし しさい こしやま てつや
管理牧師 司祭 ステパノ 越山 哲也

ケセン語に聖書を翻訳された山浦玄嗣(やまうら つぐはる)さんは故郷「ケセン」(岩手県気仙地方)の人々にイエス様の言葉を伝えたいという熱い思いから新約聖書ギリシャ語原典から一語一語丁寧に言葉の意味を確認しながら翻訳作業を進めていかれました。そして、ケセン語と音の響きが似ている世間(せけん)の人々に福音が伝わり、福音が「世間語」になることを願いケセン語訳の新約聖書が刊行されました。山浦さんの講演を私はこれまでに「東北教区修養会」、「東北教区保育者大会」で2度聴く機会が与えられました。会場はどちらも釜石神愛幼児学園(現 神愛子ども園)でした。山浦さんのお話しはとても面白く、そして心に響く内容でした。お話しの中で「ケセン語」訳聖書についてのエピソードにも触れられていました。故郷のケセンの仲間に向けて刊行したが、一番読んでくださったのは東京の人でしたとおっしゃっていました。日本中に共感呼んだ本だと思えます。私自身はいつも説教の準備をするときには参考にしています。私たちが普段礼拝で使用している聖書(新共同訳聖書)で「愛する」と訳されている言葉を「大事にする」、「神の国」を「神さまのお取り仕切り」と訳されています。とても私自身にとってわかりやすいです。イエス様がこの地上の生涯においてなされたことは「神の国の教え」を人々に伝えることです。私はいつも「神の国」を意識しています。ケセン語訳では神の国とは、神さまがお取りしきりになる状態なのだと思えます。マタイによる福音書5章からいわゆる「山上の説教」と呼ばれるイエス様の教えがぎゅっとなつまった説教集が聖書に記されており皆さんもよくご存じだと思います。その中に「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ5:9)を「お取り仕切りの喜びに誘う人は幸せだ。その人たちは神さまのめんこだっ

て語らる。」と訳されました。

平和はギリシャ語で「エイレネー」といいます。意味は「神さまのみ心に従うことで得る心の安らぎ」です。単に喧嘩をしない、戦争をしないということだけがエイレネーの真意ではなくむしろ神さまのみ心にしがうこと、神さまのお取り仕切りに応えていくことと理解してもいいのではないのでしょうか。「平和を実現する」ために私たちはこの地上から戦争、争いが一日も早く終結するようにこれからも祈り続けていきます。そしてイエス様が教えてくださった「平和」(エイレネー)とは、神さまのお取りしきりが完成することです。そして、私たちは神さまがお取り仕切りになる「神の国」へと招かれ続けており、その招きに応えていく生活を信仰生活と呼ぶのです。信仰生活は神さまと私たちとの相互の信頼関係によって成り立ちます。神さまが私たち一人一人の存在を祝福し、神の国の完成のために私たちを必要として信頼の呼びかけをしてくださっています。その呼びかけに私たちも応えていくことで日々の生活の喜びも悲しみも葛藤もすべて心の糧として主に信頼と希望を置く人をイエス様は祝福してくださっているのです。平和を実現する人々は幸いであるとの主の福音がぐっとな心に響いてきませんか。どうぞ神さまのお取り仕切りの招待状の宝庫である福音にいつも心に向けてお互いに神の国の招きに誘い合っていきましょう。そして「平和を実現する人」へとなっていけますように。

